

3-1-2. 借入金の削減

No.	管理コード	対策(どうする)	20年度までの状況	あるべき姿	課題 (乖離の原因)	具体的な取り組み	所管部課 (だれが)	目標値(数値化できるもののみ)			開始 年度	目標 年度	スケジュール(年度)(いつまでに)							達成度 (20年度末)	
								開始	現在 (H21.4.1)	最終			19	20	21	22	23	24	25		26
1	【3121-1】	借金額が返済金を上回らないよう徹底	平成16年度末に約1,107億円あった借金残高を、4年間で108億円減らし、20年度末に約999億円とした。 平成20年度の実質公債費比率、将来負担比率ともに県内の市で2番目に高い状況。	無理のない計画的な借金返済ができる。	合併前から進められてきた下水道整備、病院整備のための借金返済が、実質公債費比率を押し上げている。	借金額が返済金を上回らないよう徹底し、計画に沿って、借金残高を減らす。	企画部 企画財務課	(H18) 1,060億円	(H20) 999億円	借金残高を全会計で平成26年度末約800億円とする。	18	26	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	23%
2	【3122-1】	公債費負担適正化計画の達成				公債費負担適正化計画に沿って、地方債の発行を抑制する。	企画部 企画財務課	実質公債費比率 (H18) 20.8%	実質公債費比率 (H19) 16.4%	実質公債費比率 (H26) 14.3%	18	26	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	-
3	【3123-1】	高金利借入金の計画的な繰上げ償還の実施				公債費負担適正化計画に沿って、繰上償還を計画的に実施し、指標数値の良化させる。	企画部 企画財務課	-	(H20末) 約18億円 ※H18からの累計	繰上償還を行なう地方債の元金 (H18～H26) 約49億円	18	26	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	37%